「川尻小学校の棒踊り伝承活動の取組」

１　学校名

指宿市立川尻小学校

２　学年・人数

３年生から６年生（計 36 人）

３　日時・場所

⑴　練習の日時・場所

令和４年３月 29 日（火）・30 日（水）　川尻ふれあい交流館

令和４年４月～　　川尻小学校（運動会前の練習）

⑵　発表の日時・場所

令和４年５月 22 日（日）　川尻小学校（運動会）

※　令和元年度までは，校区との合同運動会を実施していたが令和２年度～４年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から内容を見直し，学校単独での実施となった。また，コロナ禍以前は区の敬老会でも披露していたが，ここ３年は敬老会が中止となっている。

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

⑴　名称

棒踊り（川尻）　（ぼうおどり　かわしり）

⑵　由来

棒踊りは，中国の棒術の流れをくんだ兵法の体型からあみだされた郷土芸能で，島津日新公が庶民の忠誠心を培うために踊らせたものと云われ，吉田城をたたえたもので，後は山で前は大川と歌ったものと云う。

開聞には，下仙田・川尻・上野・脇塩屋などで古くから踊られ，６尺棒をもっての渡り合いや６尺棒と３尺棒・薙刀・鎌・錫杖などのいろいろな武具を使い一糸乱れない団結のもとに勇壮活発に踊り，見物客は思わず手に汗を握ったのである。

踊りの要領は，各地区でやや異なっている。

（『開聞町郷土誌』平成６年 12 月 1 日発行）

⑶　構成等

川尻では，戦時中一時途絶えていたが，終戦後の昭和 26 年に青年団が復活させ，その後郷土芸能として保存会を結成し受け継がれている。

古くから漁師町として栄えた川尻ならではの，非常にテンポの速い立ち回り，活気に溢れた踊りが特徴である。

（指宿文化遺産手帖～郷土芸能編～　平成 31 年度 指宿まるごと博物館実行委員会）

５　保存会や地域との連携の具体

地域の「川尻棒踊り保存会」の全面的な支援の下，春季休業中に２年生以上を対象に２日ほど川尻ふれあい交流館にて練習を行っている。これにより，児童を中心に地域ぐるみで棒踊りを伝承していく体制が整っている。

６　文化財伝承・活用の取組を工夫した点

コロナ禍以前は，川尻小学校の運動会を校区との合同で実施するようにしていた。合同運動会の中で，子供たちが棒踊りを発表することで，保存会をはじめ，地域の方々にも喜んでもらえている。今後も継続して地域と連携して棒踊りを伝承していけるよう体制を整えていきたい。

７　取組の様子（練習状況，発表の場等）　※令和元年度の写真を掲載

合同運動会での発表

川尻マルシェでの披露

８　参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【保存会】

- 会員の多くは，小学校で自身も踊った経験があり，大人になって「また踊りたい」と保存会に加入している。
- 年々，児童の数が少なくなり，寂しく感じられることもあるが，学校の先生方も一緒になって踊りを覚えてくれることがとても心強く，嬉しい。
- 区の運動会や，敬老会で子供たちが披露すると，地域の方々が大変喜んでくれるので，指導する方も，真剣に指導するようになっている。
- 保存会の会員が仕事の都合等もあり，十分な人数が集まれていないことで，指導を受ける児童が戸惑うこともある。今の子供たちが，未来の保存会員として継承してくれることを期待している。

【児童】

- 大きな拍手をいただくと，練習を続けてきてよかったと実感する。
- 「迫力があった」と言われたときなどとても嬉しい。
- 次はぼくたち私たちが，後輩に教え伝えるなど受け継いでいく。
- これから棒踊りが途絶えることがないように，地域や学校の看板を背負って棒踊りを引き継いでいきたい。

【教員】

- 子供たちに自分たちが住む地域を誇りに思う心が育つと思う。大変有り難い。
- 伝統のバトンを受け継いで，これからも棒踊りを伝え続けてほしい。

【保護者】

- 上級生が下級生に丁寧に指導する様子が印象に残っていて，子供ながらに，郷土芸能を伝えていこうという意識が自然に身に付いているのでは，と感じた。